

災害医療 石巻に学ぶ

安曇野市豊科の安曇野赤十字病院は21日、同病院で災害医療シンポジウムを開いた。宮城県災害医療コーディネーターで、石巻赤十字病院医療社会事業部長の外科医・石井正さんが講演し、東日本大震災の医療救護活動について説明した。

安曇野市豊科の安曇野赤十字病院は21日、同病院で災害医療シンポジウムを開いた。宮城県災害医療コーディネーターで、石巻赤十字病院医療社会事業部長の外科医・石井正さんが講演し、東日本大震災の医療救護活動について説明した。

(高石雅也)



石巻医療圏で行った
救護活動を説明する
石井さん

大きな被害を免れた 必要性を説いた。

石巻赤十字病院は、近隣自治体を含む医療圏全体の救護拠点となった。石井さんは責任者として、全国から参集した医療チームを一元的に統括する仕組みを整え、効率的で効果的な活動を展開した。

講演では、事前に結成されていた関係機関の実務担当者協議会が

役立ったことを話し、個人的な人間関係を含めて日ごろから多方面とのつながりを深める

に感謝した。

東日本大震災を教訓に災害医療への理解や意識を高めようと同日開いた「健康まつり」の一環として企画し、

約130人が訪れた。

中信地域でも糸魚川―

静岡構造線断層帯によ

る大地震が懸念される

中、安曇野赤十字病院

の藤田正人集中治療部

長はまとめのあいさつ

で、「石巻の人にでき

て安曇野の人ができな

いことはない」と来場

者と自らを鼓舞するよ

うに語り、会場からは
大きな拍手が出た。